

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4 2 9 2 4 0 0 5 0		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎 9 0 5 番地 3 2		
自己評価作成日	平成 2 8 年 9 月 3 0 日	評価結果市町村受理日	平成28年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様お一人お一人を常に観察しており、落ち着かれない方には都度傾聴し説明行うなど対応している ・毎日温泉が楽しめる ・職員の知識を高める為積極的に研修に参加し、全職員で周知できる様報告も行っている ・不眠がちな入居者様が安眠できる様支援行っている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温泉街に位置し、ホームの温泉入浴は入居者の楽しみの1つとなっている。管理者は、非常勤職員はじめ全職員で理念の共有と実践について勉強会を行い、理念の周知徹底を図っている。入居者の日常の些細な変化を見逃さず、ケアプランに反映させ、入居者本位の支援に努めている。入居者は植木の水やりや食材の買い出しなど、日々の外出や地域の行事にも職員と参加し、地域の一員としての暮らしが窺える。運営推進会議は、参加者との活発な意見交換があり、内容は職員と共有しサービス向上へと繋げていることが、詳細な議事録から確認できる。本人・家族の「最期は住み慣れた事業所で」の意向に沿うことができるよう看取り支援の研鑽を重ねている。入居者の希望に沿った外出支援もあり、入居者や家族の安心があるアットホームなグループホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々理念に基づき意見を交換するなどして皆が実践につなげていける様努めている	基本理念、基本方針を玄関やホームに掲示し、月毎のミーティングでも意見交換を行い、理念の共有を図っている。全職員は入居者の思いに寄り添い、いかに力を発揮できるかを第一に考えており、その人らしく楽しく生活できるように実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム入口プランターの花の水やりの際や入居者様方・職員の駐車場での乗降時に地域の方が通られた際は挨拶を交わす様にしている 又地域のイベント事など参加している	毎年開催するホーム主催の餅つき大会に近隣住民が参加しており、自治会に加入し、職員が地域のイベントを手伝っている。回覧板や植物の水やり、食材の買出しや散歩など利用者の外出時は知人友人から声掛けがあり、交流している。中学生、障害者の職場体験受入れも継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームのイベント事にお誘いしたり、運営推進会議を通してホームの活動等を理解して頂ける様説明している 又入居者様はできるだけ町の中へ一緒にお連れし、社会に溶け込んで頂ける様に心がけている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に実施しており、毎月の行事や活動を報告し、会議で話し合われた内容については職員ミーティング時に伝え、その内容を活かした支援を行う様に努めている	年6回、規程のメンバーで開催している。ホーム報告の他、今年度から包括職員の出席があり、人工透析の医療費制度など専門的な情報を得ている。出席者の意見交換も活発で、詳細な議事録で確認ができる。家族に配布し浸透させるとともに、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方々とは日頃より交流もあり、今年度の運営推進会議担当もして頂いており、会議参加の折には実情を把握して頂きご意見を頂くなど協力関係を築いている	入居者に関する申請や相談に行政窓口へ出向いたり、電話で協力を得ている。地域ケア会議に参加し、情報交換や他事業所との連携を図っている。職員は、行政の主催する研修会へ参加している。ホームは介護相談員受け入れを申し込んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がやむを得ない条件について、折に触れ全職員に説明している 入居者様の状況を常に観察し、落ち着かれない時は傾聴し、場所を移動してみたりし様々な対応を行っている	外部研修を受講した職員が職員会議で報告し、共有している。また、管理者は折に触れ、言葉の拘束について会議で話し周知徹底を図っている。不穏な入居者には職員が付き添い会話している。日中の施錠は無く、拘束のない支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待・身体拘束の研修に参加し、参加した職員から研修報告行った 又虐待について常に意識を持ち、その危険性を全員が理解し、言葉の虐待も防止できる様努めている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はおられない為必要性について理解できていない職員もいる 今後は支援している様学ぶ機会を作っていかなければならない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約はご本人様とご家族様に理解・納得を得て行っている ご家族様来設時不安などないか尋ねる様にし、必要に応じ話し合いの場を設ける様にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来設時や月に一度の近況報告やケアプランの確認の際など伺う様にしている 運営の反映に至っているかは定かではないが、ご家族様の要望には副える様努力している	苦情の相談窓口や処理手順は明文化し、契約時に家族へ説明している。毎月の便りで入居者の状況や要望に対する回答をキーパーソンに家族以外にも知らせている。敬老会に家族を招待し職員や他家族と交流する場を設けている。家族面会時は話しやすい雰囲気作りを心掛け、意見要望の抽出に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティング・申し送りにて意見交換の場は設けてあるが全職員が意見を出すというわけではない しながら提案あった場合は応じて取り組んでいる 職員間の連絡・報告・連携に関しては思案中でもある	職員は、月1回のミーティング時や毎日の申し送りの中で意見、要望を出している。パート職員も申し送りに参加し、情報の共有の徹底を図っている。受講したい研修や希望休を取り入れるなど働き易い職場作りに努めている。介助用エプロンの導入など職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与・時間外手当・夜勤手当等上がってきたので給与水準面では反映されている 職員の人員不足によりその日一日が精一杯の職員が多く、各自が向上心を持って働ける職場環境の雰囲気は見られない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加の呼びかけは常に行われている 月に一度緊急時の対応等全職員よりレポート提出してもらっている 今後ケアや緊急時の対応等見直しも含めホーム内で勉強会を行い、ホーム独自のマニュアル作成を目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会の研修の内、事例検討会ではグループワークにて話し合い行う為交流できている 近隣のグループホームのお茶会等に参加し交流する機会があるが雑談で終わってしまう事が多くサービスの向上には至っていない様に思われる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の会話の中で入居者様の心境の変化・不安等を見逃さない様努めている 不安等生じた場合は必要に応じご家族様へ協力をお願いし、入居者様の安心を確保する為の努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や介護計画作成時に要望などお尋ねしている ご家族様の来設時や介護計画作成後にご家族様へ都度説明行っている 何か要望があれば気軽に話して頂ける関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の体力低下等により、車椅子・ベッドなど必要となりそうな物がある場合は、ご家族様と話し合い、必要に応じ購入する様にしている 毎月近況報告でどのような生活をされてきたのか報告し、ご家族様の要望あれば対応する様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、洗濯物たたみや料理の準備等色々お手伝いをして頂いている 又日々変化のある入居者様の出来る事出来ない事を職員は把握し、少しの手伝いで出来る事や時間をおけば出来る事等を察知し適度な介助を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一年の様々なイベントや行事にはご家族様の参加や面会の呼びかけを行い、ご家族様との絆を失わないお手伝いができる様努めている 又入居者様の記憶からご家族様が薄れていく事のない様毎日ご家族様の名前を言って頂く様にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室へ送迎行ったり、ご家族様の経営されている喫茶店へお連れしたり、又外出先で知人に会われた際その方が判らなかつたり会話が噛み合わない時など職員が間に入り馴染みの関係が途切れない様努めている	日々の会話の中で聞き取った情報はアセスメントに追記し、入居者の生活歴の把握に努めている。入居者は職員の支援で家族経営の喫茶店やパブに行ったり、馴染みの美容院や自宅近辺へのドライブに出掛けている。毎年、旧制中学校の同窓会に職員同行で出席している入居者や家族の協力を得て墓参りへ行く入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃一緒に作業して頂いたり、イベントには全員で参加して頂いたりして入居者様同士のコミュニケーションの場を作っている お互い出来る事を声かけ合いながらされている 落ち着かれない方が孤立しない様努めているが、職員の努力・工夫はまだ必要だと思われる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここ数年退去された方はなく、他界された入居者様のご家族様と年賀状のやりとりを続ける程度である 近所にお住まいのご家族様だけではあるが、餅つき大会にて搗いた餅を毎年おすそ分けして喜んで下さっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から入居者様の希望を拾い上げ、副える様に支援している 意思疎通の困難な方にもご本人様にお尋ねし、選択肢のある質問にしたり目配せでの返答を理解する努力をしたり、できる限りご本人様の希望を引き出し近づける努力をしている	日常会話の中から思いを察知したり、入浴時や病院受診時、夜勤帯などの1対1の場面で傾聴している。意思表示困難な入居者も、家族の話や生活歴から入居者の思いの把握に努めている。聞き取った思いや意向は個人日誌に記載し、また、日に2度の申し送りで、職員は思いを共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様から昔の話を聞いたり、ご家族様から教えて頂いたりして入居前の生活歴等の情報を把握する様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を個人日誌に記入している 日に二度の申し送りにて入居者様の一日の様子を職員間で詳しく伝えている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様ごとに担当者があり、入居者様の代わりにご家族様へ相談したり意見を聞いたりしている 月一回のミーティングにて全職員で意見交換し、対応策を話し合い介護計画に反映させている	利用開始時のアセスメントを基に本人、家族の意向を取り入れ、暫定プランを作成しており、1ヶ月をめどに全職員で評価を行っている。目標はあえて期間設定を行わず、月毎のミーティングで全入居者の些細な変化を見逃さず、評価を全職員で行っている。変化があれば入居者、家族の同意を得て見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌・ホーム日誌に日々の状況をわかる様に記入を行い、朝・夕の申し送りで伝達を行っている 職員間で気づきを共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の希望があれば外泊や外出の希望も対応している 入居者様の気分転換にドライブや近くへの散歩を行ったり、帰宅願望の強い方に対し外出にて満足感、翌日帰宅の約束やご家族様との写真を添えた説明等にて、安心感を得られる様な工夫をしている		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様のご要望によりリハビリにお連れしたり、食材の買出し等で一緒に外出して頂いたり、地域の祭りや行事などは可能な限り参加して頂き地域との交流を図って頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人様・ご家族様の希望通りに対応できている 希望があれば変更も行っている 新たな疾患が見つかった場合もご本人様・ご家族様へ相談し、適切な医療が受けられる様支援している	かかりつけ医を継続しているが、遠方場合は家族の同意を得て、2週に1回往診がある協力医への変更もある。職員は受診記録に記入すると共に結果は家族に伝えている。週1回訪れる訪問看護師に相談、アドバイスを受けることができ、看護師から協力医にもスムーズな病状伝達の連携があり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お一人お一人の体調の変化や情報を職員間で共有し、週に一度来設される訪問看護師に報告できる様に努め、不安な事を相談したり解らない事を質問しアドバイスを受けている 又訪問看護師を通して医師との連携を取ることでもできている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合可能な限りお見舞いに伺い病状を確認し、看護師からも状況を教えて頂き、早期に退院できる様情報交換に努めているが、病院側の早期退院に向けた姿勢が感じ取れない場合もある		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様・ご家族様と共に話し合い同意は得られている 現時点では重度の入居者様がいない為全職員の看取り介護への知識不足があり、今後勉強会等を開き的確な対応ができる様にしていく必要がある	利用開始時、本人・家族に看取り介護についての指針を説明し同意書を得ている。今回、「最期は住み慣れたホームで看取ってほしい」という家族全員の意向を受け、看取り支援を行った事例がある。医療連携体制は整っており、看護職員を主として毎月ホーム内勉強会を継続していく意向があり、職員各々の意識も高まっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはあるが全職員が熟知できていない為勉強会等を開き熟知に向けた努力が必要 又普通救命講習会への参加や避難訓練は定期的に行い的確な対応ができる様に実践力を身につける努力をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署協力の下避難訓練を行っているが全職員が把握できてはいないのが現状である為自主避難訓練等を行い、職員の防災に対する意識を高める必要がある	年2回の内1回は消防署が立会い、夜間想定で実施している。自主訓練は日中・夜間を想定し行っている。事業所階下の飲食店や近隣の旅館など事前に協力を依頼しており、参加はないが協力の了解を得ている。行政発行の防災マップを読み合わせ、職員の防災意識を高めている。ただし、自然災害マニュアルや備蓄はこれからである。	自然災害マニュアルの作成や避難訓練、火災避難訓練の回数増を期待したい。また、備蓄や非常持ち出し品の整備が望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様が話しにくい事は居室にて傾聴している プライバシーに関わる事はリビングなどでは他入居者様に聞こえない場所で話している	事業所理念に尊厳を謳っている。居室に入る時は声掛けし、職員同士の会話は入居者に聞こえないように行っている。排泄誘導の声掛けや支援時など羞恥心に配慮した支援を心掛けている。個人情報の取り扱いは契約時に家族へ説明し、同意の署名を得ている。職員は契約時に守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のご希望を聞きつつ、希望を上手く伝える事ができない入居者様は表情をくみ取りその方へ質問行い希望の有無を確認している 又受診の帰りに好まれるお菓子の購入支援等も行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴希望があった時や外出希望があった際は希望通りになる様にしている 無理な場合は入居者様へ相談し予定を組み直している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を一緒に選んで頂いている 寝癖がついている方には声かけ行い、一緒に整えたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好物を月に何度か提供している 又入居者様と一緒に食事の準備や作り方を教えて頂いたりしている	献立は、職員が入居者の希望を取り入れ、入居者の嗜好や食べやすい形状に応じている。入居者は、野菜の下ごしらえや下膳など、出来る所を手伝っている。毎年、職員と一緒に饅頭やおはぎ作りは入居者の楽しみになっている。弁当を持って、花見や風船バレー大会に行ったり、外食に出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の最中に残食がない様に声かけを行っている 水分摂取を拒否される方には、少し時間を置いてから再度飲んで頂く様にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はできていないが1回／日は行っている 入居者様がお一人で出来るところまでではご自身でして頂き、出来ない部分を介助にて行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前や水分補給(おやつ)前にはトイレへお連れする習慣となっており、入居者様の呼び声にもなるべく気付いてお連れする様にしている 脱臼治療中オムツ対応していた入居者様の回復に合わせた排泄支援もできていた	職員は排泄の自立支援を理解し、日中はトイレでの座位排泄を支援している。夜間のポータブルトイレはその都度清掃している。入居者の排泄状況を検討し、布パンツへ移行した例や退院後のおむつを入院前のパッドへ改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排便量・回数をチェックし、便秘気味であれば薬の種類・服薬量、水分の種類飲料等調整している 又排便時の腹圧の声かけや運動を促すなども行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべくご希望にお応えできる様にし、入浴中は入浴が楽しくなる様な会話をしながら入浴して頂いている	湯は温泉で利用者毎に入れ替えており、1日置きの入浴を基本とし、入居者の気分や体調に合わせて支援している。入浴できない時は足浴や清拭で対応している。好みのシャンプーを使用する入居者もあり、職員と1対1の時間は入居者の会話が弾み、季節の菖蒲湯、柚子湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に良眠して頂ける様昼間は作業を依頼したり、安眠できる様に居室の温度を調節したりしている 昼夜逆転気味の入居者様が同時期にいらっしゃった頃もあったが、職員の対応にて少しずつ改善され、一度に複数の方が不眠という事が減っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診同行者が申し送り時に薬の変更や新規の薬など確実に報告し、処方して頂いた薬について受診録に明確に記入し、全職員が理解に努める様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みのお菓子や料理など提供している 長年食べ続けておられる飴(チャイナマーブル)の購入支援、臥床して誤嚥する危険もあり居室内での行動把握などに努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様から外出希望があった場合出来る限りお連れしている 又、入居以来ご自宅やお墓の心配をされていた方がご家族様の都合もあり果たせずにはいたが、職員の働きかけとキーパーソン以外のご家族様の協力により4年ぶりに墓参りができた	他グループホームのお茶会に出掛けたり、車椅子の入居者も一緒に花見や地域のイベントなど毎月のように出掛けている。また、鯛焼きやアイスクリームを食べに行ったり、毎日、近くの商店へ買い物に行くなど、入居者の個別の外出希望は積極的に支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に職員が管理させて頂いているが、現金を持つ事で自尊心が保てるという方に関してはご自身にて管理して頂いている。その場合も領収証等必ずご自身に説明しながら一緒に管理している。なるべく一緒に買い物に行き頂き使用した金額・購入場所等出納帳へ記入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの頂き物に対するお礼の電話や手紙でのお礼、年賀状を出したりなどの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、季節の花など取り入れたりしている。失禁後は他入居者様が不快感を感じる前にと速やかに処理する様に心がけている	季節の花や入居者作品が飾られ、アットホームな雰囲気の中で、入居者はゆったりと寛いでいる。臭気にも配慮し空気清浄機を設置しており、職員による清掃や換気、温度調節で、居心地よい生活空間となっている。ただし、トイレ収納棚の目につく場所にパッドが雑然と置かれている。	入居者の羞恥心に配慮し、誰もが気持ちよくトイレを使用するためにパッド類を整頓し、人目に付かない収納の工夫に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でゆっくりされたい方は食後しばらくしてご自身で戻られたり、共用空間の方が落ち着かれる方は作業や会話を楽しまれたり、テレビで音楽を楽しまれたり、又寂しさを表される方にはなるべく傍にいて安心感を感じて頂ける様にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力の下、なるべくご自宅で使用されていた馴染みの物を使用して頂ける様にしている	洋室、和室タイプがあり、使い慣れた調度品を本人の好みに合わせ自由にレイアウトができ、入居者の作品や家族写真が飾られ、位牌も置かれている。壁は家族が思い思いに飾り付けしており、家族の繋がりが感じられる。職員による換気や清掃、温度調節で、穏やかに過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が混乱されている時にすぐに察知し、対応できる様にしている。なるべく『できること』『わかること』はご本人様にお任せし職員は見守り行いできないことの手助けをする様にしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4 2 9 2 4 0 0 0 5 0		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットほてい）		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎 9 0 5 番地 3 2		
自己評価作成日	平成 2 8 年 9 月 3 0 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・温泉による入浴を、入居者様お一人お一人にお湯を入れ替えながら、ゆったりとしたお風呂の時間を楽しんで頂いている ・地域のイベントに参加すると共に、地域の皆様の研修・体験学習を受け入れることで入居者様も社会との強い繋がりが保てている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	ホーム独自の基本理念があり、玄関や事務所に掲示、いつでも閲覧・確認することができる 又各職員も基本理念を実践する努力をしている			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の祭り・イベントには極力入居者様と職員で参加する様にしている 又ホームでの餅つき大会の際はポスターを作り、近隣の住民の方にも参加を呼びかけている			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地元中学生や障がい者の方々の職場体験学習を受け入れ、グループホームの仕組みを理解して頂き当ホームの様子を見て頂いている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に行っている運営推進会議では、各入居者様の近況、ホーム・地域の行事等の確認や案内を行っている 又会議で上がった話題はミーティングで報告し、その後の行事参加、サービスの向上に活かす努力をしている			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給されている入居者様も多く、必要書類の対応・様々な相談等協力頂いている 又、災害時の避難場所・避難経路の確認等の指導も頂いている			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない事を信条とし、夜間ご自分でトイレへ行かれる入居者様に関しては、ご家族様の了承の下離床センサーを設置させて頂いている 玄関の施錠は23:00～5:00の深夜のみとしている			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しては常日頃から全職員が意識して業務に努めており、虐待防止の研修にも出来る限り全職員が参加する様にしている 又ミーティングでも話題に上げ意識付けを行っている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に対象の方も、今後必要性がある方もおられるものの、職員の意識は薄い もう少し全職員が学ぶ姿勢を持てる様に啓発していく必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に転倒等のリスクがあることを説明し、理解して頂けている 事故や問題があるとなすぐにご家族様へ報告する様にしている 又ご家族様からの質問等に応じられる様に心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの直接の要望等はないが、評価やアンケートとして頂いたご要望などへ応えていけるようにしていきたい		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営について職員が意見を出すことは余りない		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員の人数が減り、一人にかかる負担が大きくなっている面もある 時間外勤務が無い場合の給与を考えると評価ではなく制度や手当に改良を求めたい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員はいないが、職員全員が介護能力を高め、いつ新入社員が入っても指導できる様な状態にしたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・半島の研修会へはなるべく参加する様にしている 年に一度、島原半島グループホーム対抗風船バレー大会へ参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在入居後２年以上経過した入居者様ばかりで慣れて頂いているが、不安がある様な場合、その度に傾聴し向き合い安心して頂ける様努めている 現在は傾聴する事で不安を取り除けている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当ホームへ入居したことで元気になった、入居して良かったと、ご家族様よりお言葉を頂く事があり、今後も入居時の不安を軽減する為の参考にしていきたい			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	退院やリハビリ、ホーム内での歩行や作業といった生活動作を、一つずつできる事からして頂き、何が出来るのか見極め、できる事を大切に、維持して頂いている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、一つでも笑って頂ける様な支援を心がけている 又イベントや誕生日など、グループホームだからこそできる事を行い、少しでも楽しんで頂ける様努めている			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告を手書きにてお渡しする事で、読まれたご家族様がご来設の際に、ご本人様・ご家族様・職員で一つの話題で会話させて頂く事もある			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った馴染みの場所へドライブをしたり、ご家族様が経営されているお店へ入居者様をお連れしたりして、大変喜ばれている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特にイベント時には、話が合う方同士を近くの席に配置させて頂いたり、面倒見のよい方に寂しそうな方の相手をして頂いたり工夫している 又、トラブルが発生した場合は職員が間に入り、傾聴し誤解なく納得・解決ができる様に努めたい			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護療養型医療施設へ入院され数年経過された方のお見舞いを続けていたり、逝去された方のご家族様へ年賀状を送ったり、ホームの記念食事に参加呼びかけを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のご本人様との会話や行動の中から思いや要望等の把握に努めている 聞き取りや意思疎通が困難な方でも、本氏本位である事を心がけ検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族様に以前の生活状況をお聞きたり、ご友人などが来設された際も聞き取りに努めている 又入居後は可能な限りご本人様にもお聞きたり、行動から把握したり努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌を作成しており、その日一日の食事量や体調、作業は何をされたか等記入、どの様に過ごされているか、心身状態把握に努めている 有する力についても作業や普段の行動にて把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のミーティングにて、問題を抱えておられる入居者様がいれば意見等を出し合い、現状に即した介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌にて個別に記入・記録を行い、その後のケアに活かす努力をしている 更に申し送りにて職員間で情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・買物がお好きな方がいればお連れしたり、ご家族様の代わりに墓参りにお連れしたり、ご家族様から外泊や食事にお連れしたい等の要望あればできる限り手助けし対応している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院をされているご家族様がいらっしゃる方は送迎して下さったりホームに来て下さったり、又市の福祉サービス利用援助を受け金銭の管理をお願いしている方もおられ、お一人お一人に合った支援を心がけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診・かかりつけ医などご本人様及びご家族様の希望を下に病院を受診して頂いている。現在はご家族様の同意を得て殆どの方が訪問看護を受けている病院へかかりつけ医の移行ができ、文字通り医療連携の下に強い繋がりができている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間での情報共有に努め、週に一度訪問看護師に来て頂いているので、問題あれば報告し、アドバイスを頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はご本人様の状態確認に努め病院との連携を図りつつ早期退院できる様に、ご本人様やご家族様の支援に努めている。入院中にMRSAに罹患された入居者様の退院時、病院の感染症認定看護師が指導に来て下さり協力体制が強化された		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでも終末期に向けた方針等は話し合っており、その体制作りにも努めている。ホーム内でエンジェルケア研修行っており、今後も定期的に行う予定である。現在のところ医療連携契約の病院には協力頂ける安心感はある		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習への参加は定期的に職員が交代できている。応急手当や初期対応の訓練など講習以外ホーム内では行っていないが、現在ホーム独自のマニュアル作成に取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームにて緊急時対応マニュアルを作成している。避難訓練も定期的に行っており、災害時等慌てる事無く避難できる様に常に意識することに努めている。地域・自治会などとも災害時の取り決めを行い、協力体制を築いていきたい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活で日課となる作業を依頼する際もお一人お一人が出来られる作業をお願いし、拒否がある場合は無理強いしない様になっている しかし時折職員の言動に使役動詞が混ざってしまう事がある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のお話には傾聴するよう努めており、昼間にもう寝たいとパジャマを持ってくると強く言い張る方へ、時間の説明等行いながら手元にあると安心される為パジャマをお渡しする対応をしている 又近隣でのお祭やイベントにお連れした際はお一人お一人好きな物を選んで購入されている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中午睡の希望がある入居者様には、長時間のベッド臥床にならないよう声かけ行いながらも、居室にて休んで頂いている 入浴の声かけに何度拒否の返答があっても、気分が乗られるまで時間をおき日をおき声かけしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には洗面台にてそれぞれ洗顔・整容をして頂き、ご自身でできない方にも職員にて介助を行っている 保湿剤を持たれている方は、定期的にご自身で顔に塗って頂くフォローをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・切り込み等お一人お一人が出来られるお手伝いをして頂いており、食後の下膳や片付けも無理のない範囲で行って頂いている 又季節に応じた饅頭・おはぎ作りなどをイベントとして全入居者様に参加して頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は入居者様の状態に応じて量を増減し、又一口の大きさなども入居者様に応じて小さく切って提供している できる限り間食して頂ける様に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全入居者様に声かけ行い口腔ケア実施して頂いている 夕食後義歯を装着されている入居者様には説明にて外して洗浄剤による消毒実施している 又入居以来義歯装着のまま入眠されていた方も外される様になり管理はご自身でされるので声かけや説明等の介助している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・パッド装着行いながら日中は出来る限りトイレでの排泄を行って頂く様にしている ・入院時オムツ・リハパンであった方も、退院後は状態を見ながらパッドでの対応等以前の状態へ戻す努力をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を確認し、ドクターと相談の下薬の調整を行っている 起床時・食事の際・間食時・就寝前等常時声かけを行い水分補給をお願いしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を元に、できる限り日を開けないよう入浴声かけ行っている 拒否される場合も言い方を変え、試行錯誤しながら入浴したくなる様な声かけになる様工夫している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は作業を依頼し傾眠時間を減らし、どうしても横になりたいと訴えがある場合は時間を決め、夜間の睡眠に支障が出ない様にしている 又それぞれの入眠状況に応じて起床時間をずらしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後は受診の内容や処方された薬を受診録に記録し、毎日の申し送りの中で職員間にて連絡行い、周知徹底に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、調理作業や洗濯作業等、それぞれに役割を持って頂き日々の生活を送れるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・個人の買物の場合は外出支援を行っている ・地域のイベントやお祭への参加、又天気の良い日等には近所へのドライブを行い、ご自宅でのご家族様との面会も行って頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のご希望に副って金銭管理を任せて頂いたり、ご自身で居室にて保管・管理をお任せしたりしている 又入居者様のご希望に応じて買物同行し、お好きな物を購入したい方の支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたりかかってきたり、いつでも自由に使って頂ける様にしている 又、手紙や年賀状を書きたいという要望があれば、購入や宛先の確認などお手伝いしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寒がりの入居者様が多く、年間を通して温度調節は入居者様に合わせる様心がけ、来設頂いたお客様にも不快感を与えない様に気をつけている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご希望に応じて、ご自身の席やソファなどで寛いで頂き、会話や歌を歌ったりされ楽しく過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や思い出の品等ご自由に飾って頂き、模様替えを希望されれば職員が手伝いながら家具の位置を動かして気分転換をしたりされている 又仏壇やご位牌等を祀られている方には仏飯とお茶、供え物等の支援をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在の入居者様はご自身の居室やトイレの位置も頭に入っておられ、わからない方もおられるお風呂などは必ず職員が同行している 一人の職員が複数の入居者様の歩行介助をしている時に転倒事故があつてからは必ずマンツーマンで付き添う事としている		